

愛知県美術館蔵

木製彩色 能面 『翁面』 『増女』 保存修理報告書

平成21年度  
株式会社文化財保存

カラー図版P.10～16参照

I. 名称等

1. 名称 翁面 (M296)、増女 (M1134)
2. 員数 2面
3. 所有者 愛知県美術館

II. 工期及び施工者等

1. 修理実施期間 自：平成21年8月7日  
至：平成22年3月18日
2. 施工者 株式会社 文化財保存  
代表取締役 山本 記子
3. 施工場所 奈良市登大路50番地  
奈良国立博物館文化財保存修理所装演室
4. 施工担当者 楠 京子

III. 修理作品の構造等

1. 品質形状 木製彩色による能面
2. 使用材料等

作業工程	使用材料	購入会社
剥落止め	メチルセルロース	株式会社パレット
剥落止め	ヒドロキシプロピルセルロース	(株)信越化学工業
剥落止め	牛膠	(株)金開堂
剥落止め/クリーニング	エタノール	(株)和光純薬

※翁面素地木質部の虫損充填に使用した材料は、別添えの北村工房報告書を参照。

IV. 修理前の状況

1. 彩色について

- ・ 翁面  
経年によると考えられる埃や汚れの付着が見られた。白色顔料による着色が顔全体に施されていたが、顔料層の膠着力が低下している様子であった。面の皺を表した凹部分に入り込んだ顔料のみが残っている箇所も多く、全体に小さな層状剥離や粉状化が見られた(写真1)。
- ・ 増女  
経年によると考えられる埃や汚れの付着が見られた。面に施された白色顔料層には、全面に小さな傷、細かい亀裂が見られ、特に顎、唇周辺には白色顔料層の剥落、層状剥離、浮きが見られた。また、顎部分には2cm径範囲で顔料層が剥落し木質部が大きく露出している箇所があり、剥落片の一部が別置保存されていた(写真2)。

2. 素地木質部について

- ・ 翁  
素地木質部に虫食いによる穴があり、特に下顎に虫穴が比較的多く見られた(別添えの北村工房報告書の写真参照)。
- ・ 増女  
素地木質部の状態は安定しており、特に損傷は見られなかった。

3. 収納について

絹製の包裂(袋)に包まれ、翁面は黒漆箱、増女は蒔絵箱に納められていた。

## 文化財修理報告書

北村 謙一（昭齋）

### V. 修理方針

経年による汚れ等を可能な範囲で除去し、顔料層の剥落止めを行い、今後の取り扱いや保存が容易になるよう修理を行う。

本紙修理について

- ・クリーニング  
表面の埃や汚れを、乾いた筆等を用いて可能な範囲で除去する。顔料層の強化、剥落止め後、さらに細部の埃と汚れを可能な範囲で除去する。
- ・剥落止め  
絵具層の膠着力が低下していると考えられるため、必要に応じて顔料層の強化、剥落止を行う。また、増女の剥落片は、元の場所が確認できたものについては接着を行い元の場所に戻す。
- ・虫損の充填補強  
虫損部分には樹脂、木屎等の適切な材料を充填して補強する（別添えの北村工房報告書参照）。

収納について

現状のままとする。

### VI. 修理工程

#### 1. 修理前調査

デジタルカメラによる写真撮影を行い修理前の状態を記録した。触診を行い、顔料層の状態を確認した。

#### 2. ドライクリーニング

表面の埃等を柔らかい筆等を用いて除去した。

#### 3. 剥落止め

ヒドロキシプロピルセルロースのエタノール水溶液で顔料層の強化を行った後、必要に応じて膠、メチルセルロースの混合水溶液にて剥落止めを行った。

#### 4. 木部の補強（翁面）

樹脂木屎を数回に分けて虫穴にスポイトで注入して充填補強を行った（別添えの北村工房報告書参照）。

#### 5. 確認・クリーニング

剥落止め処置箇所を点検し、顔料層の安定を確認した。また、表面細部の埃等を柔らかい筆やエタノール水に浸した柔らかい布等を用いて除去した。

#### 6. 修理後撮影

デジタルカメラにて修理後の撮影を行った。

#### 7. 保存修理報告書作成

修理前中後の記録をまとめ報告書を作成した。

### VII. 修理中、後の所見

剥落止め作業についての詳細

顔料層が粉状化している箇所全体、また層状剥離をしている箇所の小口等に、1%のヒドロキシプロピルセルロース/エタノール水溶液を塗布し強化を行った。強化の後、層状剥離箇所には4%の牛膠と3%のメチルセルロースの混合水溶液を細筆にて差し込み接着を行った。

また、増女の顎部分の剥落片は、元の場所を確認した後、4%の牛膠と3%のメチルセルロースの混合水溶液を用いて接着を行い元の場所に戻した。

品名 翁面

・品質形状

木製彩色による面。上顎と下顎に穴を開け、お互いを紐で繋いで吊る。両側頭部に紐穴を開け、紐を通す。

・破損状況

素地木質部に虫食いによる穴があり、特に下顎に虫穴が比較的多く見られる。

・修理仕様

① 修理前の調査と写真撮影を行った。

② 虫穴の充填補強には正倉院伎楽面修理で素地木質部の虫穴充填に使用経験のある樹脂木屎を使用し、数回に分けて虫穴にスポイトで注入して充填補強した。

\*樹脂木屎

主剤：ロイシール原液（アクリル樹脂＋シリコン樹脂混合水溶液 樹脂濃度36%）

増粘剤：ASE-60（アクリル樹脂濃度5%）

増量剤：エクспанセル（塩化ビニリデン樹脂マイクロバルーン）

着色剤：アクリル絵の具（ホルペイン製）

③ 修理後の写真撮影を行い、修理箇所の記録図を作成した。